岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

# 山火事が生態系におよぼす影響とその跡地の修復に関する研究



| メタデータ | 言語: Japanese |
| --- | --- |
| | 出版者: |
| | 公開日: 2008-03-12 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 津田, 智 |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12099/713 |

# はじめに

わが国では一年間に 3000 件以上もの山火事や野火が発生し，焼失する生態系（植生）は毎年数千ヘクタールにおよんでいる．焼失地は全国各地に見ることができるが，火事というイベントが生態系におよぼす影響は必ずしも明らかになってない．本研究ではおもに植物群落の成立という観点から火事が生態系に与える影響を明らかにし，さらに時系列に沿った火事跡生態系における植生修復の予測をしようとするものである．

これまでの研究から初期の火事跡には特徴的な植物群落が形成されることがわかっている．たとえば，埋土種子から発芽したヌルデ，タラノキ，ツクシハギ，サンショウなどの実生は全国各地の火事跡に共通し，これらの実生個体を含むことが火事跡植生の特徴になっている．また，東北日本の火事跡では実生の個体密度が高く，西南日本では実生が少ししか発生しないという特徴も明らかになってきている．このような特徴を持つ初期の火事跡植生も，長い年月を経過すれば森林群落になり，一見したところでは火事跡かどうかわからなくなる．しかし，日本の多くの火事跡では火事の直後から焼死木の整理伐や植林がおこなわれてしまうため，火事跡が放置された状態で森林群落にまで発達しているのを見る機会は非常に少ない．そのような状況の中で，岩手県の北上山地や北海道内の各地には焼失後に植林されることなく放置された火事跡植生が多く残っていて，しかも確かな火事の記録が残っている場合も多い．これらの場所をメインのフィールドにして火事跡植生の時系列に沿った修復過程を明らかにすると同時に，それらの植生の構成種と火事との関係を明らかにすることが本課題の目的である．

本報告書では，岩手県久慈市と北海道富良野市における古い山火事跡地の植生調査結果と，本課題実施期間中に焼失した滋賀県安土町，岐阜市，長野県松本市，宮城県丸森町における再生初期の群落の調査結果について報告する．

# 謝　辞

本研究の遂行にあたっては多くの皆様のご協力を仰ぎました．ここに記してお礼申し上げます．

東京大学北海道演習林の後藤晋博士，東京大学農学生命科学研究科保全生態学研究室の安島美穂博士，岐阜大学流域圏科学研究センター大学院生の澤田佳宏君，岩手県立大学総合情報科学部の平塚明博士には研究上の議論につきあっていただきました．また，東京大学北海道演習林の高橋康夫氏，笠原久臣氏，東京大学大学院農学生命科学研究科大学院生の高川晋一君，岐阜大学流域圏科学研究センター大学院生の安立美奈子さん，名古屋市立浄心中学校教諭の津田美子さんにはフィールド調査で大変お世話になりました．
東京大学北海道演習林長の大橋邦夫博士，高田功一業務主任をはじめとする演習林スタッフの皆様にはフィールド情報の提供など多くの便宜を図っていただきました．最後に，岐阜大学流域圏科学研究センター事務室の柳原誘子さんをはじめとする事務職員の皆様のご協力により研究が遂行できましたことに改めて感謝申し上げます．